

大型医療機器ご利用の際の注意事項

○造影検査の注意事項

- ・ 造影 CT、造影 MRI をご依頼される際には、診療情報提供書に過去 3 カ月以内の腎機能（クレアチニン値）の記載をお願いいたします。
- ・ 当院では、以下に該当する場合、安全性確保のため、基本的には造影検査をお断りし、代替え検査をお勧めしております。造影検査が不可欠な場合には、ご相談下さい。当院放射線科医師の判断、もしくは当院他科医師と相談の上、造影検査を施行できる場合もあります。
 - 過去に造影剤を使用して副作用の既往のある方。
 - 過去 1 年以内に気管支喘息の治療歴あるいは発作の既往がある方。
 - 腎機能低下（Cre1.5 以上）の方。（ただし、血液透析中の造影 CT は可能）
 - 妊娠中。
 - 重症甲状腺機能亢進がある方。（造影 MR は可能）
 - 褐色細胞腫のある方。（造影 MR は可能）
- ・ ビグアナイド系糖尿病薬（メトグルコなど）と造影 CT において使用されるヨード造影剤は併用できません。ビグアナイド系糖尿病薬を内服されている方は、当日朝から 2 日間の休薬指示をお願いいたします。また、造影検査後の腎機能の変動にご注意下さい。
- ・ 授乳中の方の造影検査は可能ですが、造影剤投与後 24 時間は授乳を控えることをお勧めしております。

○MRI 検査の注意事項

- ・ MRI をご依頼される際には、以下の既往をご確認下さい。また、来院時の問診の結果により、検査をお断りすることもありますので、ご了承ください。
 - 体内金属（MRI 撮像可能な体内金属かどうかご確認下さい。MRI 対応でないペースメーカー・ICD、人工内耳、神経刺激装置などの体内の電子機器部品に対して MRI は通常施行できません。）
 - 閉所恐怖症
 - 入れ墨（金属成分により変色・火傷の可能性がります。）
 - 妊娠（安定期以降の撮像をお勧めします）
 - 湿布薬やニトロダームなどの貼り薬は検査中に貼付できません。
 - カラーコンタクトレンズは検査前に外していただきます。保存液とケースをご持参ください。
- ・ 当院は、MRI 対応ペースメーカー及び ICD の MRI 撮影認定施設になっております。メドトロニック その他数社の機種に対して、MR 撮影が可能です（2025 年 4 月時点）。いくつかの所定の手続きが必要となります。ご予約の際に必ずお伝えください。

○核医学検査の注意事項

- ・ 当院でお受けできる主な検査は、以下のものがあります。
 - ・ **骨シンチ**
 - ・ パーキンソン病、レビー小体型認知症の鑑別診断のための、MIBG 検査
 - ・ パーキンソン病、レビー小体型認知症その他の線条体病変の鑑別診断のための、DAT scan 検査
 - ・ 認知症の鑑別時は、99mTc-ECD 脳血流 SPECT 検査
 - ・ 脳管狭窄のための、123I-IMP 脳血流 SPECT 検査（安静時のみ）
 - ・ 甲状腺シンチ（123I カプセルによる甲状腺摂取率の計測）
 - ・ 心筋シンチ（心筋血流シンチ、脂肪酸代謝等）
 - ・ 腎レノグラム
- その他、可能な検査もありますので、ご相談ください。

脳血管狭窄に対するバイパス術前のダイアモックス負荷の脳血流シンチをご希望の場合、ご来院初日に、123I-IMP 脳血流 SPECT 検査（安静時のみ）を受けていただくと同時に、当院脳神経外科を受診していただき、別日にダイアモックス負荷検査を行うにあたり詳しい検査のリスクを含めた説明をさせていただきます。後日のダイアモックス負荷検査の際は、原則 1 日検査入院をして頂きます。検査施行のためのガイドラインに従い、安全な検査を行うため、ご理解をお願いいたします。

また、当院では IMP による脳血流定量も、ARG 法（動脈採血法）ではなく、グラフプロット法を採用しております。術前の Stage 分類も可能な簡便な方法ですが、ARG 法の結果とは多少異なる点、ご理解ください。

核医学検査の多くには食事や投薬制限などが必要となります。ご予約時、適宜お伝えいたしますので患者さんにご説明ください。

なお、肺血流シンチなど、現在、供給が不安定な医薬品もあります。ご希望に添えない場合もございますが、ご理解ください。

冠動脈 CT および心臓核医学検査のご依頼は、当院循環器内科の外来を経て検査を施行させていただきますので、地域医療連携室にご希望の心臓検査をお伝えください。

大腸 CT もお受けできるようにしておりますが、前処置の説明のため検査予約日の前に放射線科受診していただく必要がございます。